

## 平成 31 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 31 年 3 月 25 日

学 長 殿

所属部局・職名 食農学類・准教授

申 請 者 名 高田 大輔

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営 <u>学会参加</u> ) 学術振興に関する事業 (学生・事務職員・その他の特別事業)
事 業 名	研究協力に関する事業 (学会参加助成)
事業実施期間	平成 31 年 3 月 22 日 ~ 平成 31 年 3 月 24 日
成 果 の 概 要	<p>園芸学会平成 31 年春季大会に参加し、講演を行った。平成 31 年 3 月 22 日～平成 31 年 3 月 24 日。要旨集は園芸学研究大 18 巻別冊 1 であり、明治大学農学部（神奈川県川崎市）にて開催された。22 日は小集会伝統園芸研究会に参加した。23 日は、「山間地ユズ園における <math>^{137}\text{Cs}</math> の果実への移行要因の検証および汚染量診断法の開発」のタイトルで、発表を行った。福島県北の数少ない常緑果樹産業である、ユズに関して、自身の福島大学着任後である 2016 年から 2018 年の間に実施した試験結果を報告した。葉への <math>^{137}\text{Cs}</math> の塗布試験を行い、塗布された物質が翌年以降に樹体内にとどまることを明らかとした。これらの点に関して、農研機構果樹研究所等の研究者との質疑を受け、今後の試験の発展性に関して議論した。24 日は、「モモ‘桃水’の自己触媒的エチレン生成能と軟化特性」に関する発表を行った。福島県内農家で栽培されているモモに関する遺伝特性を調査した報告で有り、岡山大学、京都大学との共同研究である。モモ‘桃水’が硬肉品種群の一つで有り、通常のモモ品種群とは異なる遺伝的形質を備えていること、加えて、通常、果実の軟化がおきにくいとされる硬肉品種であっても <math>10^{\circ}\text{C}</math> の低温条件では、極めて限定的ではあるが果肉の軟化が促進されることを報告した。これらの点に関して、京都大学、農研機構果樹研、愛媛大学の研究者らとの質疑から、特殊な条件の解明に関する調査を進める議論を行った。</p> <p>なお、23 日には、園芸学会功労賞の授賞式があり、「原発事故に伴う果樹園の放射性セシウム汚染対策技術開発」に関する業績に関する受賞を受けた。</p>